


# ケース2：Bさん(2歳児の母)の場合

17:00

<b>地震</b>	<b>Bさん家族</b>
震度6強	Bさん：会社員
〈発生〉 夏の晴れた平日 17時	夫：会社員
	長女：保育園児(2歳)
	自宅： 木造一戸建(築30年) 地震対策：とくになし

地震発生時の状況



会社で仕事をしている。  
夫は会社で仕事をしている。  
子どもは保育園にいる。



倒壊した家屋

保育園で子どもの無事な姿を見てほっとした。一緒に自宅まで行くが建物の外壁に亀裂が入り、大きく傾いている。もし自宅にいたらと思うとぞっとする。



避難所でぬいぐるみを抱える子ども

そのまま近くの小学校へ避難する。

近所の人を見つける。近くでは、倒壊により亡くなった人が沢山いると聞き、ショックを受ける。

自宅が使えず、夫とも連絡がとれないので、不安でたまらない。

翌朝同僚と別れ、保育園に向かう。遠くではまだ煙が見え、臭いやほこりがひどい。

翌日

数日後

子どもから目を離せず、食べ物の配給の列に並べない。

暑いが入浴できず、子どもにあせもができた。

揺れの最中

揺れが収まるまで机の下にもぐる。

帰宅経路の安全を考慮し、慎重に行動するようにしましょう。

火災延焼のため考えていた道を通ることができず、途中の学校で一晩過ごす。

公衆電話を見つけ、順番を待って保育園や夫の職場にかけがつながらない。171へメッセージを録音する。

揺れが収まる

直後

家族のことが心配になる。災害の情報を得ようとするが、停電のためテレビやパソコンが使えない。

保育園や夫の職場に携帯電話をかけるがつながらない。

上司の許可を得て退社し、保育園へ向かうことにする。同方向の同僚と一緒に出発する。

駅まで歩くが電車は止まっており、復旧の見込みがたたない。

徒歩で帰ることを決意する。

数時間後

数週間後

夏なので食中毒が心配になる。

子どもが騒ぐため、周りの目が気になる。近所の人優しい言葉をかけて子どもと遊んでくれた。

ようやく夫が避難所にきた。本当にほっとした。

夫と話し合い、交通が復旧したら、子どもを都外の親せきへ預けることにする。

避難所生活を続けながら仮住まいを探し始めたが、今後が不安である。

普段から近所付き合いを心がけましょう。

実家や親せき、友人など災害が起きた時に頼れる人を考えておきましょう。

電話回線の混乱を避けるため、地震直後の電話は控えましょう。そのため、普段から保育園・幼稚園等と、非常時の連絡や引取り手段について打ち合わせておきましょう。

地震の際、すぐ退社できる状況とは限りません。自分と夫/妻がともに帰宅困難になった場合のことを考慮しておきましょう。

普段から職場に運動靴やマスク等を準備しておきましょう。